

最大停電軒数と電柱の被害について

- 台風15号においては、電柱の破損・倒壊等が約2,000本であり、過去と比べても大きな被害を受けた。
- 一方で台風19号については、東京電力管内における電柱の破損、倒壊等の被害は683本となった。

<過去の台風被害との比較>

年	災害名 (主に被災した電力)	最大停電件数	電柱の破損、倒壊等
2018年	台風21号 (関西電力)	約240万戸	1,343本
	台風24号 (中部電力)	約180万戸	206本
2019年	台風15号 (東京電力)	約93万戸	1,996本
	台風19号 (東京電力)	約52万戸 (うち東京電力は44万戸)	683本

※台風21号及び台風24号について、最大停電件数は全電力の合計値であり、電柱の破損、倒壊等は管内となる。

電柱の損壊事故の原因について

令和元年台風15号における鉄塔及び電柱の損壊事故調査検討WG
<中間報告書>を基に作成

- 台風15号で損壊した電柱1,996本については、倒木や建物の倒壊（約74%）、看板等の飛来物（約14%）、土砂崩れ等の地盤影響（約12%）による二次被害が原因と推定されるものが大半。
- これら二次被害対策としては、①倒木処理・伐採の迅速化、事前伐採の推進、②飛来物の飛散防止に関する注意喚起の徹底、③無電柱化の推進がある。

<倒木・飛来物による電柱損壊現場の様子>

